

町小だより

令和元年
9月6日
No. 638
御免町小学校

「自分で考える力」

校長 藤井 聡

夏休みを終え、学校には子どもたちの声が響いています。夏休みに様々な体験をしてきた子どもたちは、以前よりもたくましく感じられます。

夏休みの間、子どもたちのいない教室をひとつひとつまわりながら、子どもたちのことを考えていました。1学期、大きな成長をした子、予想以上の頑張りを見せた子、友達とうまくいかなかった子、失敗をして涙していた子・・・様々な場面が思い出されました。いずれにせよ、大切な大切な町小の子です。——「2学期も、この子らのために働こう！」と、気持ちを新たにしています。

御免町小学校の子どもたちは明るく素直で、優しいと思います。人懐こくて、周囲の人々を笑顔にしてくれる子が多いと思います。そんな子どもたちが、たくましく未来を切り拓き、自分の夢に向かって自己実現を果たしていく姿を思い描いたときに、若干の物足りなさを感じることがあります。それは、自分の意志を強くもって行動し、できないことや手に入りたいものをつかもうとする姿勢です。できないことが目の前にあった時に、それを乗り越えていこうとするたくましさ、自分が手に入りたいものを自分の手でつかもうとする食欲さなどが備われば、子どもたちはもっと輝きを増すはずです。

物事に『挑戦』しようとする意志をより強いものにしていくこと、受け身ではなく自分から進んで『挑戦』していくことを目指そうとするときに、まず子どもたちに身に付けさせたい力が「自分で考える力」です。自分で考えて答えを出していくことは、判断力を高めます。そして、自分で考えて答えを出すのですから、責任は自分にあります。うまくかないことを人のせいにはできなくなります。つまり、自分の人生においては、主体が自分であることを強く意識するようになっていくのです。

2学期もスタートを切ったばかりですが、すでに御免町小学校の授業の様子が変わっています。子どもたち同士で話し合わせ、考えさせようとする教師の姿が見られます。手取り足取りして教えたところで、印象に残らなかった学習は記憶から消えます。学習効果は薄いのです。機械的に覚えさせるようなことも時に必要ですが、学習の主体はあくまでも子どもであるということを強く意識しなければなりません。『考えさせる』授業を展開しようとしている教師と、その思いに応えようとする子どもたちが一体になって創り上げていく授業には、熱気が感じられます。そんな授業の積み重ねが、子どもたちに真の学力を獲得させていくのではないかと考えています。

「自分で考える力」を育みながら、様々なことに『挑戦』させることを通して、子どもたちの成長を促していこうと思います。御支援と御協力をお願いいたします。